

競 技 注 意 事 項

- 1 本大会に適用する規則は、2024年度日本陸上競技連盟競技規則による。
 - 2 練習について
 - (1) 練習は、プログラム記載の指定された会場で、日程に従い実施すること。
 - (2) 各練習場において、牽引ロープ、ラダー、ミニハードル等の器具を用いた練習は禁止する。
 - (3) 競技場外のジョギングコースでのスパイクの使用、ハードルの設置は禁止する。
 - (4) 本競技場の芝生内での投てき練習は一切禁止する。
 - 3 室内練習場使用上の注意
 - (1) 走練習のみとし、砂場は使用禁止とする。
 - (2) 走る方向は、東側（1500mスタート側）から西側（200mスタート側）への一方通行とする。
 - (3) 用具（ブロック、ハードル等）の持込は禁止する。
 - (4) 室内練習場内での、シート・荷物などを置いての場所取りは禁止する。
 - 4 招集について（トラック・フィールドとも）
 - (1) 競技者招集所は、本競技場第2ゲート倉庫内に設ける。
 - (2) 競技者は招集開始時刻に招集所で待機し、最終確認を受けること。その際係員にアスリートビブス・氏名・校名と競技用シューズの点検を受け、競技者係の誘導に従うこと。なお、招集後は、待機場所を離れないこと。

招集の時刻は、トラック競技 30分前開始、20分前完了
※組ごとに招集時間が異なる場合があるためタイムテーブルに記載の時刻を厳守すること

フィールド競技 50分前開始、40分前完了
※棒高跳のみ 70分前開始、60分前完了

混成競技（その日の第1種目）30分前開始、20分前完了
 - (3) 招集完了時刻に遅れた選手は棄権とみなし、出場を認めない。
 - (4) 棄権する場合は、招集開始時刻までに競技者係に申し出ること。
 - (5) 2種目を同時刻に兼ねる選手は、競技者係に2種目同時届を提出すること。2種目同時届は招集所に準備している。
 - (6) 混成競技の招集は、第1日目及び2日目の最初の種目については招集所で行う。2種目以降は混成競技者控え室で確認を受け、係の指示に従うこと。
 - (7) 入退場時の移動の際は、審判員の指示に従い規律ある行動をとること。トラック競技において、スタート地点に戻る場合は、ダッグアウトを通して戻ること。
 - (8) リレーのオーダー用紙は、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前までに招集所役員に提出すること。変更がない場合でも提出すること。オーダー用紙の提出がない場合は棄権とみなす。
※オーダー用紙は予選・準決勝・決勝とも招集所に準備している。
- 5 アスリートビブスは各種目とも、胸・背部両面に付けること。ただし、跳躍種目は背（胸）部に1枚でもよい。800m・4×400mRのアンカーは、右腰に別ビブスを使用する。1500m・3000m・5000m・3000mSC・5000mWは胸・背・腰に別ビブスを使用する。別ビブスは主催者が用意する。選手は招集時に自分のアスリートビブスを提示し、競技者係から別ビブスを受け取る。なお、その別ビブスはフィニッシュ後、直ちに返却すること。
男女混成競技の最終種目では、胸・背部両面にそれまでの総合順位の順番に別ビブスをつけ、右腰にはレーンナンバーをつけて競技を行うこととする。
- 6 不正スタートについてはTR16.7、TR16.8を適用する。
- 7 走路順およびフィールド競技の試技順は、プログラム記載順序による。ただし、準決勝・決勝の組合せレーン順の決定は主催者で行う。
- 8 選手の変更は認めない。プログラムの記載に誤りのある場合は、当日の競技開始1時間前までに本部総務員に届け出ること。
- 9 携帯電話・ビデオ・音楽プレーヤーもしくは類似の機器の競技会場内への持込は禁止する。
- 10 競技用具は競技場備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳のポールと投てき用具については、個人のものの使用を認める。投てき用具の検査は、競技開始1時間30分前から1時間前まで100mスタート付近の倉庫内で行う。

- 11 フィールド競技においては、次の記録に達しない場合は計測しない。また、その試技は記録無しとして扱う。（天候などにより変更することがある）

	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男子	5 m 9 0	1 1 m 7 0	9 m 0 0	2 5 m 0 0		3 6 m 0 0
女子	4 m 5 0	9 m 0 0		2 0 m 0 0		2 5 m 0 0

- 12 跳躍競技のバーの上げ方は、次のとおりとする。（天候などにより変更することがある）

種目	練習			
走高跳（男）	1 m 5 5	1 m 6 0 ~ 1 m 7 5 まで 5 c m きざみ		以後 3 c m ずつ
走高跳（女）	1 m 2 0	1 m 2 5 ~ 1 m 4 5 まで 5 c m きざみ		以後 3 c m ずつ
棒高跳（男）	任意の高 さで実施	2 m 4 0 ~ 3 m 6 0 まで 2 0 c m きざみ	3 m 6 0 ~ 4 m 5 0 まで 1 0 c m きざみ	以後 5 c m ずつ

※女子棒高跳については当日のコンディションにより現地にて決定する。

1 位と中国大会出場者の決定におけるバーの上げ下げは次のとおりとする。

走高跳 2 c m 棒高跳 5 c m

※混成競技の走高跳については最初の高さについては当日協議の上決定する。その後のバーの上げ方は 3 c m ずつとする。

- 13 スパイクシューズのピンは、1 1 本以内とし、長さは 9 mm 以下とする。ただし、走高跳とやり投は、1 2 mm 以下とする。

シューズ底の厚さは以下の範囲内とする。必要に応じて競技後に競技役員が検査をする。

種目	シューズ底最大の厚さ
8 0 0 m 未満のトラック種目（ハードル含む）	2 0 mm
8 0 0 m 以上のトラック種目	2 5 mm
競歩	4 0 mm

※日本陸連の通達により 2 0 2 4 年 1 0 月末までの適用除外措置として、フィールド競技用シューズの靴底厚確認のための計測は不要とする。

- 14 危害防止について

- (1) セパレートレーンの競走競技においては、フィニッシュライン通過後も自己レーン(曲線)に沿って進むこと。
(2) 投てき競技においては、審判員の指示以外に勝手に練習しないこと。

- 15 各種目とも、上位 3 位までに入賞した選手は、決勝アナウンス終了後ただちに（本人が他の種目に出場の場合は代理人）エントランスホールの表彰控席に集合すること。

- 16 メインスタンドでの立っての応援・観戦、集団応援は大会運営に支障をきたす場合があるため禁止する。また、その他の場所においても競技進行の妨げとなるような応援はしないこと。

- 17 観客席でのシート等による場所取り・簡易テントの設置は禁止する。また、コンコースでのシートのみの場所取りは認めるが、通行の妨げにならないように注意すること。

- 18 医務員は、競技場のメインスタンド下の医務室で待機している。大会出場中の急病・事故については、応急処置を行うが、その後の責任は負わない。

- 19 大会運営に支障、問題が生じた場合は総務委員で協議して解決にあたる。抗議は、結果発表後 3 0 分以内に該当校の監督が各支部専門委員に申し出ること。

- 20 補助員を原則として各校 1 名以上出すこと。補助員になっている生徒は、第 1 日目は 9 : 4 0、第 2 日目・3 日目は 8 : 3 0 にエントランスホール付近に集合すること。（放送をかける）

- 21 貴重品の管理は、各自で行うこと。紛失の責任は負わない。

- 22 各種目とも上位 6 位以内に入賞した選手(男女競歩は 5 位・男女混成・女子棒高跳・女子三段跳・女子ハンマー投は 4 位以内) 及びチームは、6 月 1 3 日(木) ~ 6 月 1 6 日(日) に鳥取県で開催される中国高等学校陸上競技対校選手権大会への出場権を獲得する。該当選手の監督は、競技場正面入り口の受付にて、必ず大会期間中に申込手続きをすること。

- 23 ゴミは各校・各自で持ち帰ること。競技終了後の清掃は、1 日目は岩柳・徳山地区、2 日目は長北・下関地区、3 日目は山防・宇部地区で行うこと。